

## § ゼロから始めるリア充生活 §

あらすじ

◆泊まり明けのこの日、緊急出動がかけられた。水道局の詰め所から公用車で夜明けの繁華街に向かう。午前中にも復旧させないとこの辺りの夜の商売に大打撃を与える事になりかねない。

「大丈夫か!？」

ユンボのショベルが地中に埋まった高圧電線を引っ掛けた事が瞬時に理解出来た。しかもガス臭い。まさか…

耳をつんざく爆発音と共に吹き飛ばされながら、視界の全てがよく出来たアクション映画のワンシーンのようにスローモーションで流れ、人生のエンドロールが描写されてゆく。

◆キッチンでそそくさと料理に精を出す可愛いメイドを背後から抱き寄せ、するりとデコルテをずらせるとぷるんとたわわな実りが弾け出た。

「やだーご主人様、何するんですかー」

いつもだめという割にレ◎の声は甘く上ずっている。俺は舌で乳首を転がしたり甘噛みしながら、もう片方の乳首を指先で転がしてやる。

「ああん！いやっ、つまんじやいやっ」

それでもかまわず転がし続けていると、やがて乳首がコリコリに勃起して敏感さを増していった。すっかり発情した表情のレ◎をベッドに押し倒して脚を大きく開かせると、俺は覆い被さるようにしながら一気に挿入した。

「やん！いきなりい！」

レ◎は待ちわびたかのように締め付けてきた。俺は激しくピストン運動を繰り返した。

「あっ、激しいっ！」

「いくぞ！」

どくんと精液を注ぎ込むと、レ◎もまた絶頂を迎えた。

「ひゃああああん！！熱いいい！！」

俺のものを引き抜こうとするが、中はきつく締まって離れない。まるで吸い付いてくるかのようだ。











































